

高校サッカー部に所属する選手が求める向上心が高まるコーチの資質について

About the nature of coaches with increasing aspiration of players who belongs to a high school soccer club

1K08A249-7

割田芳輝

指導教員 主査 堀野博幸先生

副査 倉石平先生

【序論】

現代では当たり前に使われているコーチという言葉だが、コーチとは元々お客様を目的地へ送る馬車を指す目的で、スポーツにおけるコーチは、お客すなわち選手を目的地に送ることだ。選手は、先行研究より、礼儀や挨拶等の「教育的指導」を求めている。社会的スキルを向上させる指導が必要である。また、選手の達成目標が高まると社会的スキルも高まることは明らかになっているので、本研究では、達成目標と「向上心」という言葉に置き換え、選手の向上心が高まるコーチの資質について明らかにすることを目的とした。

【方法】

埼玉県内の高校のサッカー部に所属する選手を対象とし、地方レベルの選手 39 名、全国レベルの選手 123 名に先行研究を参考に作成した自作の質問紙で調査した。質問項目は 34 個で、コーチに求めるものを自由回答してもらった。調査にあたり、調査の目的、利用について説明し、了承を得た。得られた回答は、質問項目 34 個を「指導」「罰」「叱咤」「コミュニケーション」「専門」「魅力」「社会的指導」の 7 項目に分類し、項目ごとにまとめ、考察した。また、地方レベルと全国レベルの比較は t 検定を使い、有意水準を 1% と 5% に設定した。

【結果】

地方レベル、全国レベルの両者ともにコーチに求めていることは、「ほめること」「選手をよく観察し、選手の気持ちや考えを理解すること」「専門知識が高かったり、経験が豊富だったり、熟練性が高いこと」「コーチが人として信頼できて尊敬できること」であった。両者の違いとしては、地方レベルは、コーチと多くコミュニケーションを求めている。「個人的な相談に乗ってくれる」「部員の考えを引き出す質問や提案をしてくれる」「部員同士の問題を進んで解決しようとする」において、全国レベルより高い値を示した。全国レベルの選手はコミュニ

ケーションと同時に厳しさも求めている。

「普段はあまりほめないが、いいプレーをしたときだけほめる」が地方レベルより有意に高い値を示した。また、「なまけて練習していたら厳しく怒る」「練習に無断で欠席したり、遅刻したら、厳しく怒る」においても地方レベルより有意に高い値を示した。「魅力」においては、「コーチが面白い」において、地方レベルの方が高い値を有意に示した。「社会的指導」においては、すべての質問において、全国レベルの方が高い値を示した。項目ごとに比較すると、「コミュニケーション」で地方レベルの方が有意に高く、「叱咤」「社会的指導」において、全国レベルの方が高い値を示した。

【考察】

地方レベルの選手は、向上心が高まるにはコーチとのコミュニケーションが多い方がよい。それは、「コーチが面白い」において、高い値を示したことから言える。しかし、「部員と友達のような関係である」において両者とも低い値を示したのは、自由回答で「コーチに威厳がある」からわかるように、コーチは信頼できて尊敬できる人でいてほしいからであると考えられる。全国レベルの選手は、厳しさを求めるのは、自由回答のなかにあった「ときには厳しく、ときには優しく」「選手に必要な厳しさ」からも、向上心が高まるのに必要だといえる。また、社会的指導を求めているのは、自由回答で「自主練習や普段の生活態度をみて試合に使ってほしい」ことからわかり、選手がサッカーと日頃の生活を結びつけて考えているからだと言える。競技レベルによって、選手がコーチに求めるものは、違うので、選手やチームに合わせて指導を変える必要がある。今後は、違う年代や、女子選手、女性指導者、または個人スポーツで研究を進める必要があるだろう。